国立大学法人岡山大学の中期目標期間に係る業務の実績に関する評価結果

１　全体評価

岡山大学は、「高度な知の創成と的確な知の継承」を理念とし、目的である「人間社会の持続的進化のための新たなパラダイム構築」に向け邁進するため、第一期の中期目標・中期計画期間の学長戦略の柱として、「学生支援体制の充実」、「教育活動の高度化」、「研究活動の活性化」、「効果的・効率的な運営」及び「財政の健全化」を重点課題として設定し、学長のリーダーシップの下、理事ごとに重点実施事項を定め、中期目標を順調に達成してきている。

中期目標期間の業務実績の状況は、「業務運営の改善及び効率化に関する目標」の項目で中期目標の達成状況が非常に優れているほか、それ以外の項目で中期目標の達成状況が良好又はおおむね良好である。業務実績のうち、主な特記事項は以下のとおりである。

教育については、入試成績と入学後成績の追跡調査等による教育の成果・効果の多面的な検証、コア・カリキュラム確立に向けたカリキュラム改善、教員の教育方法等を改善するシステムの確立、学部横断型履修体系に取り組んだマッチングプログラムコースの設置等の取組を行っている。

研究については、「固体地球科学の国際研究拠点形成」による研究推進、「インド国を拠点とした新興・再興感染症研究」による意欲的な取組等を行っている。

社会連携・国際交流等については、岡山大学学術成果リポジトリと県立図書館のシステムとの連携、大学コンソーシアム岡山への連携の一環としての寄付講座や市民講座の提供等の取組を行っている。

業務運営については、全教職員の人事評価を本格実施し、評価結果を平成 19 年 12 月の勤勉手当及び平成 20 年 1 月の昇給に反映させており、評価できる。また、事務処理の効率化・合理化のため、決算、安全管理ガイド及び国際交流関係等の業務マニュアルの作成、給与支給業務の簡素化等、業務の統一・標準化に取り組んでいる。

財務内容については、科学研究費補助金の事前添削指導の導入等により、科学研究費補助金の採択額が増加しているほか、外部資金獲得者に対する報奨金支給制度の創設等により、受託研究、共同研究及び奨学寄附金による外部資金が増加しているなど取組に対する効果が現れている。

自己点検・評価及び情報提供等については、従前の評価体制を見直し、評価センター運営委員会の下にプロジェクト方式による体制を整備するなど具体の事項に対応できるよう工夫している。

その他業務運営については、スペースチャージ制の導入や平成 19 年度までに共通的スペースや競争的スペースとして 23,418 ㎡の共同研究スペースを確保しているなど施設の有効活用に取り組んでいる。

２　項目別評価

Ⅰ．教育研究等の質の向上の状況

（Ⅰ）教育に関する目標

１．評価結果及び判断理由

【評価結果】中期目標の達成状況がおおむね良好である
【判断理由】「教育に関する目標」に係る中期目標（４項目）のうち、１項目が「良好」、３項目が「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

２．各中期目標の達成状況

(1) 教育の成果に関する目標

［評価結果］中期目標の達成状況がおおむね良好である
［判断理由］「教育の成果に関する目標」の下に定められている具体的な目標（４項目）のうち、２項目が「良好」、２項目が「おおむね良好」であり、これらの結果に加え、学部・研究科等の現況分析における関連項目「学業の成果」「進路・就職の状況」の結果も勘案して、総合的に判断した。

(2) 教育内容等に関する目標

［評価結果］中期目標の達成状況がおおむね良好である
［判断理由］「教育内容等に関する目標」の下に定められている具体的な目標（８項目）のうち、２項目が「良好」、６項目が「おおむね良好」であり、これらの結果に加え、学部・研究科等の現況分析における関連項目「教育内容」「教育方法」の結果も勘案して、総合的に判断した。

(3) 教育の実施体制等に関する目標

［評価結果］中期目標の達成状況が良好である
［判断理由］「教育の実施体制等に関する目標」の下に定められている具体的な目標（６項目）のうち、１項目が「非常に優れている」、２項目が「良好」、３項目が「おおむね良好」であり、これらの結果に加え、学部・研究科等の現況分析における関連項目「教育の実施体制」の結果も勘案して、総合的に判断した。

(4) 学生への支援に関する目標

［評価結果］中期目標の達成状況がおおむね良好である
［判断理由］「学生への支援に関する目標」の下に定められている具体的な目標（4項目）のすべてが「おおむね良好」であることから判断した。

３．優れた点、改善を要する点、特色ある点

（優れた点）

○　中期計画で「教育の成果・効果（目標達成度）を厳密に検証する」としていることについて、入試成績と入学後成績等の追跡調査、学生・同僚による授業評価、在学生・卒業生・就職先企業等に対するアンケート等、教育の成果・効果を多面的に検証している。特に、授業評価アンケートは学部大学院のほとんどの科目で実施し、学生からの回答率が高く、全体的な満足度は相応の値を示していることは、優れていると判断される。

○　中期目標で「先進的・学際的分野にも対応した教育課程を構築する」としていることについて、学際性、応用力、実践力等を養う授業科目の整備、コア・カリキュラムの確立に向けたカリキュラムの改善が着実に行われており、また、「岡山大学ユネスコチェア」による教育プログラムを開始し、教育課程の構築を図っていることは、優れていると判断される。

○　中期計画「大学教育に関する研究・開発及び企画立案を担う教育開発センターが中心となり、全学的、組織的に教育内容及び授業方法改善の取組みを推進する」について、FD 研修会や授業ピアレビュー、さらには授業評価アンケート等授業方法の改善に全学で取り組み、これらの成果をウェブサイト版『ティーチングティップス』に反映させ、各教員が教育方法や授業内容を改善するシステムを確立させたことは、教育内容・授業方法の改善を多面的に推進している点で、優れていると判断される。

（特色ある点）

○　中期計画で「教養教育における目標の達成」としていることについて、学生参画型 FD で提案された授業科目が展開され、「課題探求指向性の獲得」につながっているということは、特色ある取組であると判断される。

○　中期目標で「教養教育と学部専門教育の均衡のとれた教育課程の構築を図る」としていることについて、マッチングプログラムコースを設置し、学部横断型履修体系に取り組み、学生を主体とした教育内容を推進していることは、特色ある取組であると判断される。

○　中期計画「学生を積極的に FD に参加させることを通じて、学ぶ者の視点を授業改善に取り込み、有効な FD を展開する」について、学生を積極的にファカルティ・ディベロップメント(FD)に参加させることによって、学ぶ者の視点を授業改善に取り込み、学生参画型 FD をテーマとしたシンポジウム及びワークショップの開催等、多様

な取組によって学生参画型 FD の定着を図っていることは、特色ある取組であると判断される。

○　中期計画「学生による社会貢献の一環としてボランティア活動を大学教育の中に位置づけ、学生のボランティア活動への参加を適切に評価・支援する体制を整える」について、学生相談室のピアサポーター（学生）のボランティア活動を単位化していることは、学生のボランティア活動への参加を積極的に推進している点で、特色ある取組であると判断される。

○　中期計画「学生生活の利便性を増進するため、サークル活動などの課外活動等を活性化させ、これを支援する施設を整備し、かつソフト面の充実を図る」について、平成 19 年度から、課外スポーツ活動を単位化する教養教育科目を開講していることは、課外活動の活性化を図っているという点で、特色ある取組であると判断される。

（II）研究に関する目標

１．評価結果及び判断理由

【評価結果】中期目標の達成状況がおおむね良好である
【判断理由】「研究に関する目標」に係る中期目標（２項目）のすべてが「おおむね良好」であることから判断した。

２．各中期目標の達成状況

(1) 研究水準及び研究の成果等に関する目標

［評価結果］中期目標の達成状況がおおむね良好である
［判断理由］「研究水準及び研究の成果等に関する目標」の下に定められている具体的な目標（４項目）のすべてが「おおむね良好」であり、これらの結果に加え、学部・研究科等の現況分析における関連項目「研究活動の状況」「研究成果の状況」の結果も勘案して、総合的に判断した。

(2) 研究実施体制等の整備に関する目標

［評価結果］中期目標の達成状況がおおむね良好である
［判断理由］「研究実施体制等の整備に関する目標」の下に定められている具体的な目標（７項目）のすべてが「おおむね良好」であることから判断した。

３．優れた点、改善を要する点、特色ある点

（優れた点）

○　中期計画で「全国共同利用施設として教育研究等のための研究基盤に係る設備の整備と提供を行うとともに国内・国際共同研究を推進し、この分野における国際研究拠点とする」としていることについて、地球物質科学研究センターは、21 世紀 COE プログラムに採択された「固体地球科学の国際研究拠点形成」の研究推進により、全国共同利用施設として、この分野の国際研究拠点を形成し、同プログラムの中間評価において、高い評価を得るとともに、国際評価・勧告委員会の最終報告書においても高く評価されていることは、優れていると判断される。

（特色ある点）

○　中期目標で「既存の各学術領域や基盤領域における学術研究の一層の推進を図るとともに、新しい学術の創成を図り、独創的な研究の展開を推進する」としていることについて、重点プロジェクトの一つ「インド国を拠点とした新興・再興感染症研究」は、新興・再興感染症研究拠点形成プログラムの新規小規模海外研究拠点形成を目指した予備調査研究提案に採択され、平成 19 年度にインドに岡山大学インド感染症共同研究センターを設立し、腸管感染症を中心に意欲的に研究活動を展開していることは、特色ある取組であると判断される。

（III）その他の目標

（１）社会との連携、国際交流等に関する目標

１．評価結果及び判断理由

【評価結果】中期目標の達成状況がおおむね良好である
【判断理由】「社会との連携、国際交流等に関する目標」に係る中期目標（１項目）が「おおむね良好」であることから判断した。

２．各中期目標の達成状況

(1) 社会との連携、国際交流等に関する目標

［評価結果］中期目標の達成状況がおおむね良好である
［判断理由］「社会との連携、国際交流等に関する目標」の下に定められている具体的な目標（５項目）のうち、２項目が「良好」、３項目が「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

３．優れた点、改善を要する点、特色ある点

（優れた点）

○　中期計画で「地域における生涯学習の拠点としての責務を果たす」としていることについて、平成 17 年度から岡山大学学術成果リポジトリを構築し、その中の地域・国内向けシステムを県立図書館のシステムと連携させたことから、年間 16 万件を超えるアクセスを得ていることは、優れていると判断される。

○　中期計画「国際交流推進機構を中核として、国際開発サポートセンターを通じた国際援助機関が行う人材育成事業への参画及び独立行政法人国際協力機構（JICA）や地方公共団体との連携による専門家の派遣、研修員の受入れにより発展途上国への教育・研究協力及び社会貢献を推進する」について、岡山大学インド感染症共同研究センターの設立やユネスコチェア等での活動を通じ、発展途上国への社会貢献を推進し、毎年、JICA を通じて専門家を発展途上国に派遣していることは、優れていると判断される。

（特色ある点）

○　中期計画「教育研究の将来の発展という視点から、学術交流、単位互換等、地域の大学間連携を一層推進する」について、岡山大学のリーダーシップによる大学コンソーシアム岡山の設立、中でも、大学コンソーシアム岡山への連携の一環として、地元銀行の寄付講座や一般市民を対象とした市民講座の提供は、特色ある取組であると判断される。

（２）附属病院に関する目標

豊かな人材育成のために、プライマリ・ケア研修に重点を置いた研修プログラムの提供と、地域中核病院・へき地医療施設にも参加を要請して研修内容の充実化を図っている。また、遺伝子・細胞治療センターを拠点として、遺伝子治療やがんワクチン等のナノバイオ標的医療シーズの臨床開発・共同研究を推進している。診療では、がん、救急、遠隔地、周産期等の医療において、地域と密接に連携して、成果を上げている。

平成 16 ～ 19 年度の実績のうち、下記の事項が注目される。

○　教育・研究面

・　医療教育統合開発センターを設置して、卒前・卒後・生涯教育の充実を図っている。また、医師の研修及びキャリアプランの支援に関する事業を目的とした特定非営利活動法人「岡山医師研修支援機構」を設立している。

・　歯科卒後臨床研修においても、地域歯科保健活動研修を組み込んで、地域の歯科医院の協力施設を増加させて、歯科医療研修の充実を図っている。

・　遺伝子・細胞治療センターを中心に、遺伝子治療や細胞治療の基礎研究を進めているとともに、がんの診断・治療や次世代細胞治療に関する研究等、国際的な医療開発に貢献している。

○　診療面

・　「岡山県周産期医療施設オープン病院化モデル事業」に参画して、開放型病床５床を設置し、県内の周産期医療の充実とレベル向上を図っている。

・　重症心疾患に対する手術体制の整備のために冠状動脈疾患管理室（CCU）を８床増床し、また、臓器移植医療を専従して対応するために、移植コーディネータを配置するなど、安全な移植医療を提供している。

・　臓器別診療体制については、総合診療・全人的医療にも配慮した取組が期待される。

○　運営面

・　病院長のリーダーシップの下、目標管理（MBO）制度を導入、年度当初に病院運営方針説明、診療科に目標値と経営改善策等の提出、進捗状況ヒアリング等を実施して、病院運営体制の強化を図っている。

・　病床稼働率の上昇・平均在院日数の短縮で収入増加を図るとともに、物流管理システムの導入、医薬品等の価格見直しを行って経費削減に努めている。また、経営状況は定例会議やウェブサイトで随時報告している。

・　附属病院の運営においては、管理責任者である病院長の職務の重要性を認識し、また、教育研究への影響を配慮しつつ計画を進める必要があることから、病院長がリーダーシップを発揮しやすい院内環境の整備が期待される。

（３）附属学校に関する目標

附属学校は、学部・附属学校園連絡調整会議を設置し、企画・運営に関する機能を集約化・統合した上で、同会議を月１回定期的に開催し、附属学校園の改革、改善及び諸課題についての検討を迅速、継続的に行っており、学部との連携強化の下、学校運営の改善を積極的に推進している。

全教科にわたって多くの学部教員の参加による相互乗り入れ授業が行われており、学部・附属学校園の連携強化につながるとともに、附属学校園における教育実践研究の研究推進の一助となっている。

平成 16 ～ 19 年度の実績のうち、下記の事項が注目される。

○　学部教員の学問知や附属学校園教員の実践知を学生に伝え教えるために、学部・附属相互乗り入れ授業を実施しており、附属小学校・中学校の研究推進の一助となっている。また、大学院生の相互乗り入れ授業における教材作成協力や授業参観が学習指導力の育成に効果的であったため、平成 20 年度より附属学校園をフィールドにしたコースワーク教育実践研究として単位化することとしている。

○　附属学校園における教育実習改善のために、実習生を対象にアンケート調査を実施し、附属学校園教員と学部の教育実習関係専門委員会委員とが共同で、教育実習改善のために課題の発見・分析等を実施し、課題解決の方策を協議して改善に努めている。また、３年次主免教育実習の充実を図るため、実践的指導力の基礎がどのレベルまで

修得されているかを評価する教育実習ポートフォリオ及び指標を作成している。

（Ⅳ）定員超過の状況

○　平成 16 年度から平成 19 年度まで一貫して、保健学研究科の定員超過率が 130 ％を上回っていることから、今後、速やかに入学定員の見直しを含め定員超過の改善を行うことが求められる。

Ⅱ．業務運営・財務内容等の状況

（１）業務運営の改善及び効率化に関する目標
①　運営体制の改善
②　教育研究組織の見直し
③　人事の適正化
④　事務等の効率化・合理化

平成 16 ～ 19 年度の実績のうち、下記の事項が注目される。

○　全職種（事務職員、教室系技術職員、教員、医療技術職員、看護職員）の人事評価を本格実施し､平成 19 年 12 月の勤勉手当及び平成 20 年 1 月の昇給から反映しており、評価できる。
○　学長裁量経費等を含む戦略的経費について、平成 20 年度予算編成では 16 億 5,000 万円（対平成 16 年度比 6 億 3,700 万円増）とするなど、学長のリーダーシップの下、資源配分を増額させ、教育研究の向上や学術研究活動推進のための組織改革等に取り組んでいる。
○　女性教員の受入れについて、雇用促進検討ワーキンググループ及び次世代育成支援対策検討委員会による継続的な取組や大学独自の雇用制度等の取組により、平成 19 年度における女性教員数は 180 名（対平成 15 年度比 26 名増）、女性教員比率は 12.9 ％（対平成 15 年度比 1.6 ％増）となっており、法人化以降、毎年度増加している。
○　事務処理の効率化・合理化のため、決算、安全管理ガイド及び国際交流関係等の業務マニュアルの作成、給与支給業務の簡素化等、事務改善プロジェクト活動に取り組んでおり業務の統一・標準化を実施している。

【評定】中期目標の達成状況が非常に優れている
（理由）中期計画の記載 25 事項すべてが「中期計画を上回って実施している」又は「中期計画を十分に実施している」と認められるほか、全職種の人事評価を本格実施し、処遇に反映させている取組が行われていること等を総合的に勘案したことによる。

（２）財務内容の改善に関する目標
①　外部研究資金その他の自己収入の増加
②　経費の抑制
③　資産の運用管理の改善

平成 16 ～ 19 年度の実績のうち、下記の事項が注目される。

○　外部資金等の獲得のため、研究推進・産学官連携機構による全学的な取組や報奨金

支給制度の創設等により、受託研究、共同研究及び奨学寄附金による外部資金は 32 億 3,685 万円（対平成 15 年度比 7 億 2,969 万円増）となっている。また、平成 19 年度の科学研究費補助金の採択額は 20 億円（対平成 15 年度比３億 2,800 万円増）となっている。

○　経費節減対策推進委員会により全学的な節減に取り組んでおり、平成 19 年度までに印刷費、電力料、用紙購入費、通信運搬費、病院情報管理システム賃借及び保守経費等、約 1 億 5,000 万円を節減している。

○　大学保有の設備の有効利用と地域貢献に資するため、電子顕微鏡等の大型機器を、他機関の研究者等を対象に有料で学外開放をしており、その収入を設備の維持費や更新に充てている。

○　中期計画における総人件費改革を踏まえた人件費削減目標の達成に向けて、着実に人件費削減が行われている。今後とも中期目標・中期計画の達成に向け、教育研究の質を確保しつつ、人件費削減の取組を行うことが期待される。

【評定】中期目標の達成状況が良好である

（理由）中期計画の記載 6 事項すべてが「中期計画を上回って実施している」又は「中期計画を十分に実施している」と認められ、上記の状況等を総合的に勘案したことによる。

（３）自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標

①　評価の充実

②　情報公開等の推進

平成 16 ～ 19 年度の実績のうち、下記の事項が注目される。

○　従前の評価センター会議及び評価センター運営会議を廃止し、評価センター運営委員会の下にプロジェクト方式により体制を整備するなど、具体の事項に対応できるよう工夫しており、自己点検・評価活動を充実させている。

○　大学の課題と展望をシリーズとして新聞へ掲載するほか、独自にインターネットを通じて世界に情報発信するシステム（岡山大学学術成果リポジトリ）の構築等、研究成果、教育内容等種々の情報を学内外に積極的に提供している。

【評定】中期目標の達成状況が良好である

（理由）中期計画の記載３事項すべてが「中期計画を上回って実施している」又は「中期計画を十分に実施している」と認められ、上記の状況等を総合的に勘案したことによる。

（４）その他業務運営に関する重要目標

① 施設設備の整備・活用等
② 安全管理

平成 16 ～ 19 年度の実績のうち、下記の事項が注目される。

○ 施設の有効活用を図るため、平成 18 年度から全学的な共同利用スペースにおいてスペースチャージの導入を行っている。また、平成 19 年度までに共通的スペースや競争的スペースとして 23,418 ㎡の共同利用スペースを確保している。
○ 全学の施設パトロールを実施し、施設の利用状況及び施設の老朽箇所等の点検を行い、パトロール結果は教育研究環境の確保や環境改善の整備に反映させている。
○ 研究費の不正使用防止のため、公的研究費等の不正使用等防止に関する規程の整備、不正防止計画推進室の設置等を行っている。

【評定】中期目標の達成状況が良好である
（理由）中期計画の記載 7 事項すべてが「中期計画を上回って実施している」又は「中期計画を十分に実施している」と認められ、上記の状況等を総合的に勘案したことによる。